

第3章 重視すべき視点

第3章 重視すべき視点

1 重視すべき視点の整理

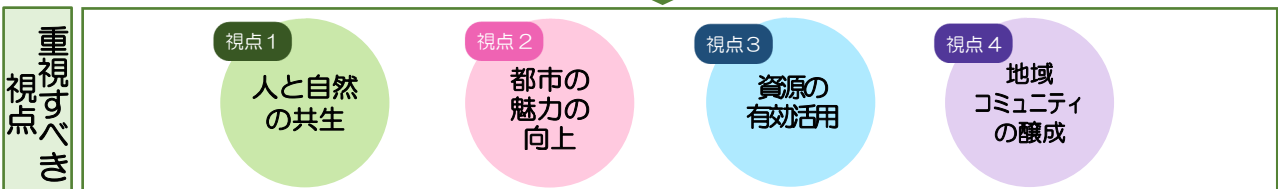
これまで札幌のみどりの分野では、経済成長や人口増加などを背景として、札幌を取り巻くみどりの保全と創出や、良好な住環境形成のための量的なみどりの整備を進め、一定の成果をあげてきました。

しかし、地球規模の環境問題の深刻化、人口減少社会の到来、少子高齢化の進行など、札幌を取り巻く社会情勢が変化しています。

こうした中、これからのみどりづくりにおいて、限られた経営資源の中で効果的に事業を展開していくために、守られてきたみどりを大切にしながら、みどりが持つさまざまな役割を最大限活用して、柔軟に使いこなしていくことにより、今あるみどりに新たな価値を見出ししていくことが重要と捉え、今後10年間にわたりみどりの分野で取り組みを進めるうえで重視すべき視点を、「人と自然の共生」「都市の魅力の向上」「資源の有効活用」「地域コミュニティの醸成」の4点に整理しました。

第3章

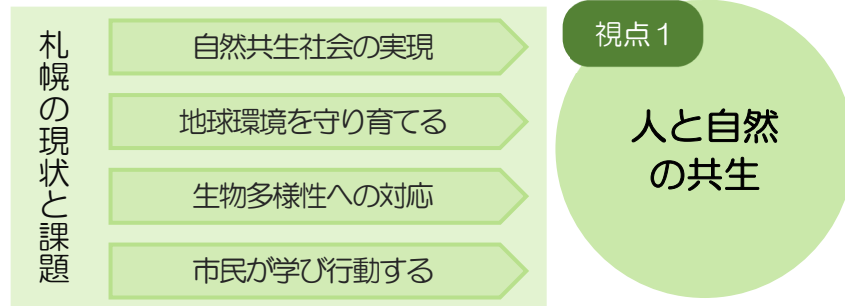
札幌の現状	<p>■社会情勢の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地球規模の環境問題の深刻化 ○SDGsの推進 ○人口減少社会の到来、少子高齢化の進行 ○経営資源の制約 ○人口構造の地域的な偏り ○外国人来訪者の増加 ○北海道新幹線の札幌延伸、冬季オリンピック・パラリンピックの開催招致 ○都市公園法等の改正（ストック活用、民間との連携加速、都市公園を柔軟に使いこなす） <p>■札幌のまちづくりの方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○札幌市まちづくり戦略ビジョン 	札幌のみどりの課題	<p>自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 人工林の管理の遅れ イ 森林の利用ニーズ多様化 ウ 耕作放棄地の増加 エ 生物多様性への対応
	<p>【地域】 重要な視点：地域での支え合いとつながりづくり</p> <p>【子ども若者】 重要な視点：将来を担う子ども・若者の健やかな育み</p> <p>【安全・安心】 重要な視点：安心して暮らせる「人に優しい」まちづくり</p> <p>【環境】 重要な視点：次世代へつなげる持続可能なまちづくり 基本目標：豊かな自然環境と共生するまちにします 市民が環境について学び行動するまちにします</p> <p>【都市空間】 重要な視点：魅力と活力を持続的に高める集約型のまちづくり 基本目標：札幌の顔となる魅力と活力あふれる都心にします 都市の価値を高めるみどりを生かしたまちにします</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第2次札幌市都市計画マスタープラン ○札幌市立地適正化計画 ○札幌市景観計画 ○生物多様性さっぽろビジョン ○第2次都心まちづくり計画 ○第2次札幌市環境基本計画 		<p>都市</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 都心のみどり不足 イ 都市公園の地域的な偏りと老朽化 ウ 多様な市民ニーズへの対応 エ 街路樹の老齢化、維持管理の困難化
			<p>ひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ア ボランティアの高齢化、中心となる人材不足 イ ボランティア活動の認知度の低迷 ウ ボランティア活動の参加へのハードル



2 みどり分野で取り組む視点

(1) 視点1 人と自然の共生

地球環境の保全や生物多様性のベースとなる自然環境を守り、
教育の場、ふれあいの場として活用する視点

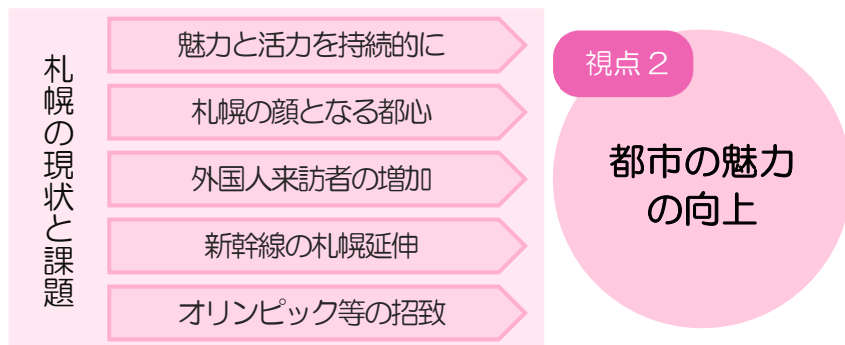


札幌では平成20年（2008年）に環境首都・札幌を宣言し、第2次札幌市環境基本計画においても「都市と自然が調和した自然共生社会の実現」を掲げています。

先人が残してくれた札幌のみどりを今後も大切に守り育てていくためには、市民や来訪者が、教育の場やふれあいの場として親しめるような活動に積極的に取り組んでいく必要があります。

(2) 視点2 都市の魅力の向上

札幌の活力を維持していくため、都市の魅力を高めるみどりの
空間を、都心を中心に創出し、活用していく視点

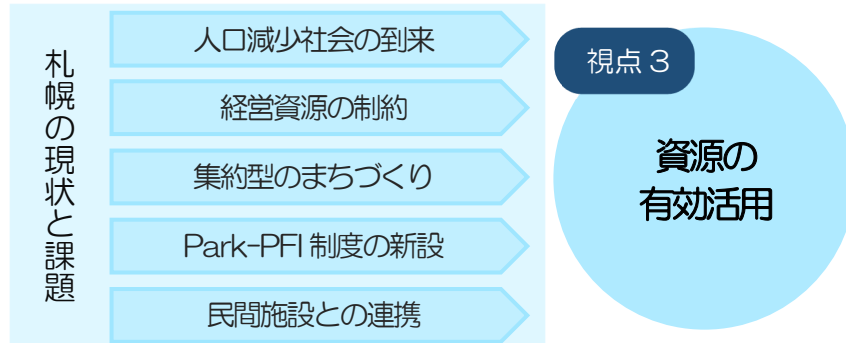


人口減少社会を控え、札幌が活力あふれる都市であり続けるためには、北海道新幹線の札幌延伸や冬季オリンピック・パラリンピックの開催誘致などを契機として、都市の魅力を高める必要があります。

そのために、みどりの分野では、市民や国内外の来訪者が多く訪れる都心において、都市基盤としてのみどりのあるべき姿を市民・事業者・公共施設の担い手に示し、みどり豊かで魅力あふれるまち札幌の形成をリードするとともに、市民や来訪者が憩い交流し滞留する魅力的な空間として活用していく視点が必要です。

(3) 視点3 資源の有効活用

集約型のまちづくりを行う中で、今ある公園をより一層活用するとともに、まちづくりと連動してみどり豊かなオープンスペースを創出する視点



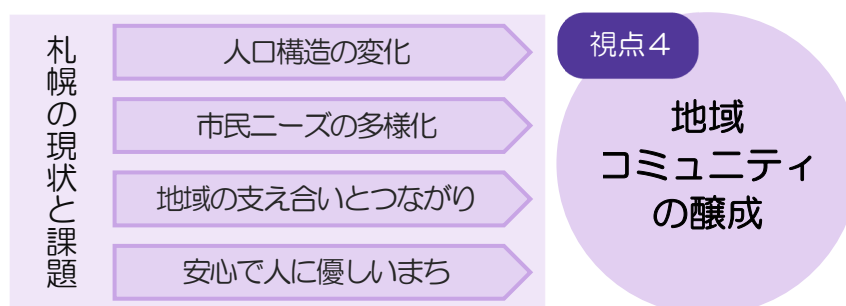
公園緑地の整備は一定の水準にあり、量的にはほぼ充足しています。今後は人口減少社会を見据え、公園施設の総量を抑制していくとともに、今あるものの個性にあわせて、民間施設との連携や都市公園では民間活力を導入する（Park-PFI）など、より市民に使っていただくことを重視していきます。

また、災害時において、みどりは土砂災害防止や延焼の防止などの役割を果たすとともに、都市公園等は避難の場、救援活動の拠点となるなどの多面的機能を発揮する視点も重要です。

さらに、まちづくりにおいて都心や地域交流拠点などに機能を集約する方向性が示される中で、みどりの分野においても、まちづくりと連動した複合化や都心の開発にあわせたみどり豊かなオープンスペースの創出など、うるおいのある魅力的な空間を効果的に創出していく視点が必要です。

(4) 視点4 地域コミュニティの醸成

少子高齢化等に伴い市民ニーズが多様化する中、公園緑地に集うことで生まれる、優しい地域コミュニティを育む視点



人口構造の変化等に伴い、市民ニーズが多様化しており、都市公園などの利用形態も変化しています。身近な公園緑地を地域の方とのコミュニケーションや世代間のふれあいの場としていくことで、誰もが安全・安心で住みやすく、災害時にも支えあえる地域コミュニティを育む視点が必要です。